

ウィダー先生のご退職にあたって

感謝の言葉

ウィダー先生は、1999年から1年間神学部で宣教師としてお勤めになられた後、1年半離職され、2001年10月に復職されました。あわせて20年近く神学部の新約聖書学の教授として、教育、研究、伝道者・神学研究者の養成にご尽力くださいました。2020年3月をもって、本国のスイスで新しく生活を始められ、ご自身の研究に専念されるためにご退職なさいます。

ウィダー先生は、スイスのベルン大学で哲学、ドイツ学を学ばれた後、神学に専攻を変えられ、バーゼル大学、ハイデルベルク大学でも神学を学ばれました。特にヘブライ人への手紙の研究に取り組み、"Theozentrik und Bekenntnis. Untersuchungen zur Theologie des Redens Gottes im Hebräerbrief"という博士論文を執筆され、ベルン大学で神学博士号を取得されました。上記の論文を著書として刊行されるとともに、チューリッヒ訳聖書のヘブライ書の注解書"Der Brief an die Hebräer"も出版されています。さらに、ロマ書、コリント書、ガラテヤ書におけるパウロ研究にも取り組み、多くの論文を公表されています。

ウィダー先生のお話を聞くと、そのお話の面白さにわくわくするとともに、先生の知識の深さと広さに圧倒されることがあります。ウィダー先生は、キリスト教はもちろんヨーロッパ思想・文化、また政治・社会、ユング心理学について豊かな知識をお持ちになっています。ヨーロッパ思想・文化だけではなくインドのバンガロール大学でヒンズー教の研究にも取り組み、アメリカの Society for Buddhist-Christian Studies に所属され仏教とキリスト教の宗教間対話にも関心を持っておられます。日本の文化にも造詣が深く、尺八を習われ、相当な腕前であると聞いています。今までその演奏をお聞きする機会がなかったのが残念です。実はギターの演奏もお上手であるそうです。ひょっとするとわたしたちの知らないウィダー先生の一面がまだまだあるのかも知れません。その広く、かつ奥深い知識や才能をひけらかすことなく、いつも謙虚に、また真摯な態度でわたしたちに接してくださいます。しかし、一旦話し始められると、その知識が縦横無尽に結びついて、わたしたちを知識の海、思索の森へと誘ってくれます。チャペルでのお話も、聖書のテキストとわたしたちの生き方や現実の経験とを結びつけてくださり、現代に聖書を読む意味と楽しさを教えてくれました。

ウィダー先生が今年度をもってご退任になられることはわたしたちにとって大変残念なことです。神学部を代表して、長年にわたって日本にご滞在くださり、神学教育にご貢献くださったことに感謝申し上げます。またいつの日か上ヶ原で研究の成果をご披露くださり、スイスの新鮮な神学の風を吹かせてくださることを願っています。

Herzlichen Dank! Und auf Wiedersehen!

2020年2月1日

神学部長 中道基夫